

令和4年度 ユニットフロア目標

「利用者と職員の心と身体に寄り添う介護」

【目標を設定した背景】

●利用者

- ・利用者の方の剥離が目立つ。また、原因が不明で、同じ利用者の方が多い。その原因を探り、剥離を減らしていく中で、剥離を起こさない為にはどのような介助方法が良いか、予防できるか考え介助を行う。行う過程で、危機管理能力を高めていく。
- ・利用者の方のADLの維持を目指す。各フロアで利用者を選定し1年後にも現在の状態が維持できているように取り組んでいく。

●職員

- ・腰痛予防の為に、ノーリフトを推進している。少しずつだが、意識が変わり持ち上げない介護を行っているが、まだ不十分である。職員全員が1人の利用者の方に対し、同じ介助方法で行えるようリフトやスライディングボードを使用し、負担軽減を図る。

【取り組み内容】

●ADLの維持

- ・例：立位困難であるトイレ希望の利用者を、現在朝昼2人介助にてトイレ誘導している。概ねトイレにて排泄があり、今の機能を維持できるように支援していく。

【皮膚剥離】

- ・皮膚剥離の事故報告書があがったら、それに対しての是正を必ず全職員で周知し、再度同じ事が起こらない様に介助していく。
- ・自己にて剥離を起こされる方に対しては、普段の様子観察を行い、どのような対応をしたら、剥離を防ぐ事が出来るかを考え、発信していく。

【腰痛予防】

- ・腰痛予防に対し、各ユニットでスライディングボードを使用する利用者をフロア会議で検討し、介助方法を統一していく。

令和4年度 2階フロア目標

「利用者、職員にとって負担の無いよう無理をせず安全な介助を行う。」

【目標設定理由】

- ・昨年度、利用者の転倒が続き骨折というアクシデントもあった事から、今年度は転倒防止に努める。

【具体的取組】

- ・転倒リスクのある利用者の要因は各々異なっており、日中と夜間でも違いがみられるため、一人一人の要因を探り対策をたて経過をみる。
- ・周囲を見ないで動く多人数の利用者を見守る事で、予測の視野も広げ観察。洞察力を磨く。

【職員が目指す負担の無い介助】

- ・利用者の年齢の幅があり、若く身体の高い利用者も増えている。用具の使用や二人介助を行うなどして、職員誰もがリスク無く介助できるようにする。
- ・介護の負担軽減により、利用者とのコミュニケーションを更に多く取るよう努め、笑顔が多く見られるフロアを目指したい。

令和4年度 3階フロア目標

「傾聴力を身につける」

【目標設定理由】

- ・安心して介護を任せってもらうためには傾聴の力を身につけ利用者とうまくコミュニケーションを取れるようになる事が大切。
- ・「相手の話を受け止め、共感し、受容する」それが傾聴。話し手の気持ちに寄り添い尊重する。
- ・利用者の尊厳を守り、心身ともに快適に過ごしてもらうことで職員が仕事をスムーズに行えると考ええる。

【取り組み内容】

- ・日々の業務を行う中でコミュニケーションを取り利用者又は家族の気持ちを汲み取り、形に出来ないか毎月のフロアー会議で話し合い結果として残していく。

令和4年度 医務年間目標

「結核感染の再発防止」

【目標設定理由】

●感染予防マニュアルより、

- ・「待ち込まない、持ち出さない、広げない」を確実に行うにあたり、前年度の目標のフローチャート作成が未完成であったため、今年度に完成をめざす。それによって、情報を共有することができ、医務の誰もが共通の認識で、利用者の対応ができることをめざす。また、利用者の状態から感染症と結びつけて考えることができ、早期に対応することで、感染の防止につながると考える。
- ・コロナウイルス感染や他の感染症に対しても新しい知識を積極的に学び、実践に生かし利用者を守る。

【取り組み】

- ・マニュアルに沿って、フローチャートを作成。医務での情報共有と利用者個々の状態の把握が明確になる。前期（9月まで）にフローチャート「案」を作成し、医務で検討する。
- ・後期に完成、実際に使用し、個人ファイルに閉じる。